



雲仙岳1991年6月7日撮影 空中写真

大きな被害をもたらした6月3日の火砕流の直後に地質調査所が撮影した空中写真の一部を立体視できるように示した。A及びBの写真(縮尺5,000分の1)は、地獄跡火口付近に形成された溶岩ドームの様子を示している。5月20日から形成され始めた西側のドームに対して新しい溶岩が急崖を隔ててその東側に分布している。その他の写真は縮尺12,500分の1で、火砕流の本体が流下した部分だけでなく、そのまわりの広い範囲の斜面の樹木がなぎ倒され、さらにその周辺が黒く焼けている様子が示され、火砕流の恐ろしさがわかる。写真Eの中央部右側(東側)には、約200年前に大崩壊した眉山の一部が見える。また現在(9月初旬)火砕流の流下が懸念されている千本木地区の一部が写真上部(北側)に見えている。(AとB、CとDが立体視できる；C→E、D→Fは連続写真)

地質調査所雲仙岳火山調査研究グループ



